令和８年度　小平第三中学校　授業改善推進プラン

国語科　１年生

１　日常の学習状況について

（１）ほとんどの生徒が授業に落ち着いて臨むことができている。真面目に取り組み、自分の考えを深めようとしている。一方で、授業には参加をするが、班での話し合い活動等で積極性に欠ける生徒もいる。

（２）自分の考えを書くことや、相手に自分の考えを伝えることが苦手な生徒も、少人数集団での活動を取り入れることで、他者の意見を受け入れながら、自分の考えを発信することができている。

（３）漢字テストを実施することで、漢字を覚えようと積極的に取り組む生徒が増えている。しかし、部首や字形を意識して書くことや、誤字脱字を自分で気付くことができない生徒もいる。

（４）人前に立って自分の考えを発表することに対して苦手意識をもっている生徒もいるが、おおむね相手に伝えることを意識して発表することができている。

２　期末考査等の結果を踏まえて

（１）漢字の「読み」「書き」について、「読み」は正答率が高い。一方、「書き」は漢字テストにも出題された問題はよくできていたが、漢字練習字典から出題された漢字の問題は正答率が低かった。

（２）基本的な読解力が身に付いている生徒が多く、記号問題や書き抜き問題は正答率が高い。解答を本文に基づいて考えることができている。

（３）記述問題については、全く書けていない生徒はほとんどいなかった。授業での発問を中心に記述問題を作成していたため、授業での学びが定着しているといえる。

（４）期末考査の振り返りをさせ、字の書き方、解答の仕方(問いに対する理由の答え方、問題の指示に当てはまる解答の書き方等)を確認した成果が２学期の中間考査や期末考査で表れるよう、さらに学習の仕方について振り返る機会を設ける。

３　学力に関する状況

（１）生徒の大半が意欲的に授業に取り組む姿勢を整えることができている。

（２）小学生で習った漢字や、助詞や文末表現の使い方等、言語に関する知識を復習する必要がある。

（３）自分の意見を全体で発表したり、表現したりする力を更にのばす必要がある。

（４）書くことを苦手としている生徒が一定数いる。周りの生徒にアドバイスをもらいながら粘り強く書こうとしている生徒もいれば、教員からの個別の支援が必要な生徒もいる。

４　教科の課題

（１）学習面

・語彙を増やす学習が不足している。
・字を書く機会が減っているために、字を書くこと(ノートやワークシート等)を苦手としている生徒が多い。
・家庭学習の習慣が身に付いておらず、次の授業までの課題ができていない生徒が一定数いる。また、できていたとしても、文字の誤りや空欄をそのままにして提出する生徒も一定数いる。

（２）指導面

・発表の仕方、話し合い活動等、生徒の学習状況に応じて細かい支援が必要。
・提出物を出せない、出せていない生徒への個別の支援が必要。

５　授業改善について

（１）学習面

・辞書を引く時間を確保し、辞書を引くことに慣れさせ、語彙力を磨く。
・漢字については、定期的に小テストを実施し、知識の定着を図る。
・知識を活用して考える課題に取り組ませるとともに、発表や作文等の表現する学習課題を充実させる。
・書き方に関する指導を更に充実させるとともに、相互評価などの交流活動を積極的に設け、互いに推敲することで、より伝わりやすい書き方への理解を促進させる。
・発表が苦手な生徒に対しては、少人数集団での活動を取り入れること、発表の仕方を提示することで抵抗感をなくしていく。また、生徒同士の意見交換も含め、発言・発表の場を大切にし、筋道立てて説明する力を養う。
・ICT 機器を活用し、個別の学びを広げたり深めたりするとともに協働的な学びを展開する。

（２）指導面

・毎時間の目標や内容を明確にすることで見通しをもたせ、生徒が理解を深められるよう、的確な発問になるよう工夫する。
・生徒同士で確認したり教え合ったりできるような、学び合いの時間を活動に取り入れていく。そこから、自分の考えを更に広げられるよう指導する。
・支援が必要な生徒に ICT 機器を用いて効果的な使い方を考え、実践する。
・定期的に漢字テストを行い、努力の成果を実感させるとともに、定着を図る。また、間違った漢字の見直しをすることで言語能力を養う。
・「天声人語」プリント課題を定期的に取り組み、語彙を豊かにし、考えながら読む習慣を付けて読む力を伸ばす。

6　成果の確認

（1）観点別学習状況の評価の学期ごとの比較
（2）中間考査、期末考査の結果の考察
（3）授業で使用したノートやワークシート、生徒の授業評価の考察

令和８年度　小平第三中学校　授業改善推進プラン

国語科　二年生

１　日常の学習状況について

（１）課題に一生懸命取り組もうとする生徒が多い。文章の読み取りを苦手とするからか、長文読解に難色を示すことがある。

（２）漢字の小テスト、音読、ワーク、プリントなどに意欲的に取り組む生徒が多いが、自分の考えをもつことはできても発表を苦手とする生徒が多い。

（３）予習にあたる家庭学習の課題への取組が不十分なため、授業中の主体的な取組が滞りがちな生徒がいる。

２　期末考査等の結果を踏まえて

（１）漢字を軽視する部分もあり、漢字テストからの出題にも関わらず正答率が低い傾向にあった。

（２）情景から心情を推察したり、示された感情に対する共感や反論などの自分の意見をもったりすることを苦手とするので、微妙なニュアンスの違いに気付けず選択肢問題にひっかかることがある。

（３）話の展開をおおまかに捉えて復習する時間を作ったり、解説を通して選択肢の違いに納得したりしたが、自分の力で正解へ辿り着く力を確実に身に付けているとは言い難い。

３　学力に関する状況

授業で提示した課題については多くの生徒が真面目に取り組み、成果も出ている。学習したことをプリントにまとめる基本的な「書く力」が身に付いてきている。漢字の小テストに向けてもよく努力する生徒が増えた一方、あらかじめ範囲の指定されているのにもかかわらず漢字テストの準備ができない生徒、定期テストの書く問題量の多さに対応できていない生徒もいる。日々の授業でプリントに「聞き取ったことや考えたことをメモさせる」ことで書く力を身に付けさせたり、メリハリのある明確な発問をするなど工夫したりするなどして、注意や意欲を喚起する必要がある。

４　教科の課題

（１）学習面

・文章を正確に読み取る力や、記述されていない内容を想像する力、自分の意見をもち、それを的確に表現する力が不足している。

・語彙を増やすような学習（調べ学習）が不足している。

・家庭学習の習慣が身に付いていないため、直前に詰め込むような学習スタイルになってしまっている生徒が多い。

（２）指導面

・個々の達成感、成就感の得られる授業、全員が授業に参加できる学習の場としてまだ

十分とは言えない。
・提出物を出せない生徒への個別指導が十分ではない。
・授業プリントの書き込み量が生徒によって違うので、振り返り学習の精度に差が生まれている。

5　授業改善について

（1） 学習面
・知的好奇心を刺激するような、夢中になる課題や発問に取り組ませる。
・毎時間示している「学習の目標」をきちんと把握させた上で授業に取り組ませる。
・漢字テストの予定を早めに示し、家庭学習を促す。
・「書く」ことに関して設定された様々な課題に段階的に挑戦させる。
・単元の始めに辞書を引く時間を設けることで、時間はかかるが、語彙を増やす学習を丁寧に継続する。

（2）指導面
・学習目標（めあて）は常に掲示し、それに沿う展開を心がける。
・授業中に板書をとることもままならない生徒に対して、ポイントを書きこむプリント作りを行う。
・授業の最初に漢字及び言語事項に関する練習を実施したり、簡単な暗唱に取り組ませたりする学習を行う。
・提出物を早めに提示し、進捗状況を確認する。誤りのあった提出物の評価を返却し、やり直しができるようにする。(学習掲示板の活用)
・多様な文章に多く触れさせ、豊かな表現力を身に付けられるようにする。
・見通し、調整していく力を育てるために、単元ごとの個人評価を行わせ、自己の変容（成長）と次への目標を確認することを継続していく。
・テストは解いて終わりではなく、見直しを徹底させる。

6　成果の確認

・観点別評価の学期ごとの比較、改善に向けての考察を行う。
・定期考査や小テストなどの結果から単元ごとに理解度を確認し、改善に向けての考察を行う。
・生徒の授業評価から、指導方法の改善を行う。

令和８年度　小平第三中学校　授業改善推進プラン

国語科　３年生

１　日常の学習状況について

・前向きに授業に取り組む生徒が多く、おおむね落ち着いた学習態度である。一方で発言する生徒が固定化しており、積極性に欠ける面もある。

・学習者用端末での学習が多くなっている等の影響からか、字を書くスピードが遅く、漢字を書けない生徒が一定数いる。また、文法事項の定着度は低い。

・「知識・技能」については、定期的に漢字の小テストに取り組むことで、定着を図っているが、字を丁寧に書く意識が足りない生徒が多くみられる。

・「思考力・判断力・表現力」における『話すこと・聞くこと』については、人前に立って自分の考えを発表したり、表現したりすることが得意な生徒が多いと感じる。『書くこと』については、苦手意識をもっている生徒もおり、作文等で表現することに対して抵抗感を示す生徒もいる。『読むこと』については基本的な学力が身についているものの、読解した内容に対して疑問を呈したり自分の意見をもったりすることを苦手としている生徒が多い。

２　定期考査等の結果を踏まえて

・漢字は多くの生徒が反復練習を行っていることが分かった。

・「記述力」は、字数制限のある問いに対して、自分なりの言葉でまとめようと試行錯誤する様子が見られた。一方で、語彙力や表現力などが不足している部分がある。また、マスの使い方や問いに正対した文末表現等、基礎的な知識の復習が必要な生徒が一定数見られた。そのため、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く力、資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力を意識して学習に取り組ませる必要がある。

・「読解力」は、記号問題や書き抜き問題は正答率が高く、文章中から必要な部分を読む力が身に付いていることが分かった。

・教科書本文を読む回数が不足しており、問題を解く時間を要する生徒が多く見られた。そのため、問題の難易度にしては得点が伸びなかった。

３　教科の指導上の課題（授業評価アンケートより）　◎そう思う　○ややそう思う

①授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。（◎87.8%○11.7%　計99.5%）

②授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる。（◎87.8%○11.2%　計99.0%）

③授業内容や指示・説明がわかりやすい。（◎84.3%○14.2%　計98.5%）

④意欲的に取り組めるような授業になっている。（◎80.7%○16.2%　計97.2%）

⑤板書やプリント、ICT機器の活用等が工夫され、理解が深まる。（◎83.8%○14.2%　計97.5%）

（1）③の結果から、授業内容や指示・説明について課題があることが分かった。文学的な文章における時代背景の説明の際にスライド等の視覚情報を加えたり、ワークシートの文章の見直しを行ったりして、改善を図る。

（2）④の結果から、授業に意欲的に取り組めていない生徒がいることが分かった。学習に対する消極的な姿勢につながっていると考えられるため、学習の導入を工夫したり、言語活動を取り入れたりして改善を図る。

（3）⑤の結果から、教具を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことが分かった。特にICT機器については活用回数を増加しているため、生徒の学習により効果的な活動になるように、どのツールを使用するか等を精査して改善をはかる。

４　授業改善について

（1）発問や指示について生徒の反応を予想しながら教材研究をするとともに、板書・プリント等の教具でも生徒自身が視覚的に指示を確認できる環境を整える。

（2）生徒間の意見交流や体験的な活動を取り入れ、生徒の興味・関心の向上につなげる。

（3）生徒の思考の補助や知識の反復等、目的をもってICT機器を授業内で活用する。

５　成果の確認

（1）観点別学習状況の評価の学期ごとの比較

（2）中間考査、期末考査の結果の考察

（3）生徒の活動の様子や、授業で使用したノート・ワークシート、授業評価等の考察

（4）業者の学力テストによる生徒の学習成果の把握